



寺カフェ寄席の様様（令和6年1月7日・順慶寺本堂にて）

今月の一枚

順慶寺だより

印刷・発行 順慶寺
2024年(令和6年)

2月号

VOL.364

◆◆ 三年目の寺カフェ ◆◆

順慶寺では、有志で、令和4年5月より順慶寺南落間を中心に寺カフェが運営されている。寺カフェは、当時の総代の中で、開かれた寺のあり方や家に閉じこもりがちなお年寄りのコミュニケーション作りに、カフェを始める提案があり、役員会で了承された。その後、寺カフェは様々な企画をしつつ成長している。

◇ 荒々しい言葉は苦痛を与える ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』から、
「荒々しい言葉を口にするな。」

言われた人はあなたに言い返すだろう。

怒りの言葉は苦痛であり

その報いはあなたの身に降りかかる。

(一三三偈)

ひび割れた銅鑼の音のように

荒々しい言葉を口にしなければ

あなたは怒ることがなく

安らぎに達する。」

(一三四偈)

元旦におこった能登半島地震では、多くの皆さんが被災され、今も困難な避難生活をされています。

被災された皆さんが、口々に「おかげさま」という感謝の言葉を話しておられるのを聞き、感謝を忘れてはいけない、荒々しい言葉を言っていないと、今回の釈尊の言葉を思い出しました。

この二節は、祇園精舎で出家したコンダナーナという長老についての逸話から出ています。

伝えでは、コンダナーナ長老は、出家したと

今月の釈尊の言葉

荒々しい言葉

怒りの言葉は苦痛となり

報いは自身に降りかかる

◆ダンマパダ(法句経) 第三三偈より

長老をさげすみ、荒々しい言葉をかける比丘たちと、長老がけんかになったところに、釈尊が仲裁に入ります。



若院のテーマカット NO.57



きから、一人の女性の幻がつきまといつていました。この女性は、本人には見えず、他からは見えるという厄介な幻でした。ですから、長老が気付かないうちに、普段から①比丘たちは長老を破戒者と蔑んでいました。

あるとき、比丘たちが国王のもとに行き、コンダナーナ長老を追放するように請願するので、国王が赴くと、長老は物腰やさしく何も落ち度がないことが分かり、逆に手厚くもてなしました。これに腹を立てた、比丘たちが、思わず「この破戒ものめ！」と叫んだため、長老が怒り、事態が収まらなくなりました。

そこで、そろって釈尊に相談に行く
と、釈尊は、「幻は前世の報いであり、互いに壊れて音の出ない銅鑼のようになりなさい」と諫めるのでした。

◆ナムアミダブツにあうご縁◆

『ダンマパダで』は、続く一三五偈に、「老いと死は、生きとし生けるものを終焉に駆り立てる。」
と云っています。

先のことを心配し、自分の思いや執着を続けるものに、老いと病、そして死が容赦なく襲いかかる。この姿は、「牛飼いが棒でもって、牛を駆り立てるようなものだ」と喩えています。

私たちは、実は、様々な縁によって生かされているのですが、自分のことばかりに思いが行くと、多大なる縁に生かされていることを見過ごし、先の

心配ばかりをしています。

「ご縁 ご縁 みなご縁

困ったことも みなご縁

ナムアミダブツにあうご縁」

(②木村無相)

この言葉から、先の奥尻島で起こった大地震で、家財まるごと失った老女が、天を仰ぎ、お念仏していた姿を思い出します。おそらく、若い先短い人生で、穏やかに死にたいと思っていたところに、大津波に大火災です。すべてを失っても阿弥陀様は見放しはしないし、生まれた命を生ききることは、この世に産んで下さったご両親の願いでもありました。こうした身の上に気付かされ、阿弥陀様のご催促と受け取るのが、真宗の生き方です。
改めて、能登地震で被災された皆さんが、愚痴を言わず、おかげさまで言われる姿に心から感動します。

①比丘

仏教において出家し、具足戒を守る男性の修行者のこと。具足戒とは、本来、教団の一員として全てを備えておく戒律であったが、中国では、涅槃に近づくために、修行者が守らなくてはならない戒律とされ、二五〇の戒律がある。女性の出家修行者は、比丘尼といい、男性よりも多い三三七の戒律が課せられる。

②木村無相

一九〇四年 熊本県八代市のトンネル工事現場の親方の子として生まれる。私

生児として育てられ、三歳の時に朝鮮・満州に渡る。十七歳の時一人帰国、この時『歎異抄』に出会う。二十歳で再び満州へ行くもゆきづまり、二度自殺未遂。それがきっかけで高野山に入って学問修行をするも、三十一歳の時に、念仏に出会い、五十七歳から六十九歳まで、東本願寺同朋会館の守衛をつとめた。その念仏に生きる生き方は、多くの真宗門徒に感銘を与え、今なお「無相さん」と慕われている。一九八三年一月六日七十九歳で往生。



亡くなったおじいちゃんが、昔はお寺の報恩講は1月の寒い時期だったから大変だったよ、と言ってましたが、ビックリです!



そういえば、老院がよく言っていましたね。

それは、昔は、大事な田んぼの稲刈りが、秋も深まった十一月ごろに行われていたためです。

昔の稲刈りの情報を見ますと、「十一月になると、稲穂に実りができると、稲刈りがはじまります。稲刈りは、ふつう北西のすみからはじめ、横に4株ずつ刈っては左側へねせていきまし。刈り取った稲は、田んぼで2



《第四十六回 感得》

ある先生が「感得」という言葉をよく使います。

例えば「お念仏の教えを感得する」といった具合です。

感得という言葉は、辞書には、「感じ取ること。また、物事の奥深い道理を悟り知る

こと。」とあります。宗教の教えというのは、自身の経験を通して感じ取ったものでないと真に納得できるものではない、という思いが「感得」という言葉に込められているのではないのでしょうか。

お寺とともに

「雪」

雪の朝。

昨晩は寒くて何度も目が覚めたから、と外を見ると案の定雪がチラチラと舞っていました。境内の天水受けや蓮の大鉢にもしっかりと氷が張り、他にもあちこち凍っています。

「これは通学団の子供達が大騒ぎだわ。」

と、いつもの光景が目につくたび、思わず笑みがこぼれたのですが…。

年初の能登半島地震の被災地にもこの雪は無慈悲に降り積もりました。寒さに加え、断水でも困りの生活での雪。この雪が水道の蛇口から出る水であったなら…。

思うようにならない大自然を目の当たりにして、改めて小さな不都合に愚痴がでる自らの日々が恥ずかしくなります。

「それはソレだからね。」

と、優しくアドバイスをくださる方に心を軽くしていただきながら、今年一年感謝して過ごしていきたいです。



満堂の本堂で修正会厳修

4年ぶりにコロナ禍以前の形で開催

順慶寺では、毎年、大晦日23時45分から本堂にて正信偈のお勤めをしながら、新年を迎える形で、修正会を行っています。

今年の修正会は、コロナ禍で実施を控えていた、御汁粉接待、お屠蘇接待などを完全に復活させることにしました。そのためか、除夜の鐘をうちつつ、本堂に集まって来た参詣者で、本堂に準備された百席ほどはすべて埋まり、満堂となりました。おつとめは、元旦に合わせて、正信偈、



修正会でお勤めの後、焼香、お屠蘇・御汁粉接待(本堂にて)

「弥陀成仏のこのかたは」の六首引。御内仏でのおつとめと同じです。その後、若院が『御文』を拝読し、住職の年頭所感、役員挨拶がありました。責役の相木国男氏は、これからの子供への宗教感情のことを踏まえ、「南無阿弥陀仏をわかりやすく言う」と、ありがとう・ごめんなさい・お願いますと聞きました。刈高出身の学者・外山滋比古氏は、よく本物の大人にならなさいとおっしゃいましたが、これからよい習慣を身につけましょう。

と話されました。その後、順次焼香、お屠蘇や御汁粉の接待となりました。毎年、修正会参詣者に住職の年頭所感を踏まえた「今年の言葉」を記したお菓子袋を持ち帰っていただきますが、今年の言葉は、「今ここにいることは大きな支えのおかげさまだいたいた心を感じ感謝の気持ちで生きていこう」でした。奇しくも、元旦に発生した能登半島地震の被災者の多くが真宗門徒で、被災後のインタビューに、「おかげさま」を連呼しておられたのを聞き、改めて身の引き締まる思いがします。

好評につき本年も開催 新春寺カフェ寄席

さる、1月7日(日)、有志で運営している寺カフェが主催する、新春寺カフェ寄席が、順慶寺本堂で開催されました。出演は、好評だった昨年に引き続き、愛知教育大学落語研究会の皆さん。本格落語に取り組む、純情亭勇み足さん、漫才に取り組む檸檬亭蜂蜜さんの二人。当日は、寺カフェが大賑わいで、ほとんどの人が寄席を楽しみました。



立ち漫才の檸檬亭蜂蜜さん



落語をする純情亭勇み足さん

1月度護寺会物故者

浄惠院釋尼妙間

12月26日寂 塚本喜久子(95)

今川西組 塚本秀喜様の義母

宝泉院釋計念

1月4日寂 平野計之昭(93)

今川西組 塚本透様の義父

精專院釋幸道

12月29日寂 都築幸雄(88)

来迎寺組 都築和人様の父

桜光院釋幸健

1月7日寂 山本幸彦(74)

知立市 山本順子様の夫

釋尼笑悦

1月1日寂 桐木みえ子(72)

一ツ木町 桐木由紀夫様の母

釋尼好風

1月20日寂 縄本好子(84)

豊明市 縄本博樹様の母

編集部短信

◆能登半島地震大谷派寺院の被災状況Ⅱ 元旦に発生した能登半島地震で、真宗大谷派の寺院の被災はおよそ七ヶ寺。うち大規模被災はおよそ百ヶ寺となっている(1月24日現在)。宗派では、随時スタッフの現地派遣、義援活動等を実施中。また、順慶寺からは、日本赤十字社を通じて、1月25日付けで義援金を納付した。

◆役員新年会を開催Ⅱ さる1月24日、刈谷市木曾路にて順慶寺の役員で新年会を開催。出席者は、総代、教化委員の二十一名。冒頭、能登地震の被災者に黙祷を捧げてから、各々の一年の抱負を大いに語り合った。

編集雑記

元旦の能登地震で被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。被災されたお年寄りが、避難先で、「温かいものをいただければ、優しく声はかけてくださるし、……と、大変な中でも感謝しているのを目にしました。おそらく、その言葉の後に小声でお念仏されているのではないかと心から感動しました。(住)

……
先日雪が降りましたね。積もらないほどの雪でしたが、刺すような寒さの前に思わずたじろいでしまいました。今回の冬は暖かかっただけに、寒さが余計に身に沁みます。(若)



2月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	木		木-1
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火	二十一組門徒会研修(13:30、順慶寺)	
7	水		
8	木		木-2
9	金		
10	土		
11	日	建国記念日	
12	月		
13	火		
14	水		
15	木	観音堂報恩講(午前・午後、泉田町・観音堂)	木-3

16	金	定例責役総代会(19:00、順慶寺玄関)	
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		木-4
23	金	天皇誕生日	
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	木		
3/1	金	寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
3/2	土		

2月行事内容 詳細

二十一組門徒会研修

2月6日(火)

午後1時30分、順慶寺本堂
講師 稲前恵文氏(岡市栄光寺住職)
講題 「ただ念仏」のころ

岡崎教区二十一組の門徒会研修が、2月と3月に亘って開催されます。2月は、当山が会所になり、前岡崎教区会議長・稲前恵文氏を迎え、「ただ念仏」のころ」というテーマでお話いただきます。研修当日は、寺院役職者研修も兼ねることから、総代など組内各寺院で役職されておられる方の参加も予定されています。

観音堂報恩講

2月15日(木)

午前10時・午後1時 泉田町・観音堂
法話 三浦眞教氏(常葉寺住職)

順慶寺門徒である、鬼頭家が護る観音堂で、報恩講が勤められます。本年より、コロナ禍以前に行われていた、午前午後の予定で法要が勤められる予定です。皆さまお誘い合わせの上、御参詣下さいますようお願いいたします。

お知らせ

●2月の寺カフェはお休み

昨年同様、2月の寺カフェは、冬期休業とします。3月1日から再開しますので、お楽しみにしてください。

●護寺役員年番会について

来る3月24日(日)14時から、護寺役員の皆さんと次期年番さんに、新年度の行事予定等の説明会を開催します。昨年からは始まった新年番制度を昨年の反省を踏まえて、一層改善

した内容とする予定です。各地の年番の皆さんは、万障繰り合わせてご参加ください。

●能登地震・義援金募金について

順慶寺では、能登地震の被災地に真宗大谷派を通して義援金を送るために、本堂の賽銭箱の手前に2月1日より専用の義援金募金箱を設置します。当面、3月一杯をメドに送金をする予定です。ご縁の出来る方は是非ご助力をお願いします。

じゅんこのときめき歳時記



元日の能登半島地震で被災された皆さんに、心からお見舞いします。

正月は、例年になく温かい中で迎えたのですが、一月も中旬になると、氷点下の日や雪の舞う日もあり、凍てつく中で、被災地の皆さんにとっては例年以上に大変な日常となってしまうています。少しでも早く、厳しい気候が過ぎ去るのを心から祈らずにはられません。

二月二十日ごろになると、気候がゆるみはじめ、空から降るものが雪から雨水(うすい)に変わることから、雨水というそうです。ところによっては、

春一番が吹き、ウグイスが鳴き始め、そろそろ農業を始める時期とされます。雨水の時期は、虫が始める(けい)蟄(三月初八日ごろ)になるまでを言うそうです。

心とく 明日は雨水と

聞きより

水原春郎

